

平成 26 年度 新クラフト産業・デザイン育成支援事業
高岡コミュニケーションギフト開発プロジェクト
ZAI [GIFT FROM TAKAOKA] レポート

～お土産再考～

平成 26 年 1 1 月 8 日（土）実施の第 3 回研究会では、参加メンバーそれぞれが、私の今まで買ったお土産『①ベスト・オブ・土産』『②ワースト・オブ・土産』について、実物や画像で発表。その後の、商品アイデア発表→試作アイテム決定を前に、安次富ディレクターからのアドバイスを図示したチェックシート1～3をもとに、「お土産」について再考した。内容は以下。

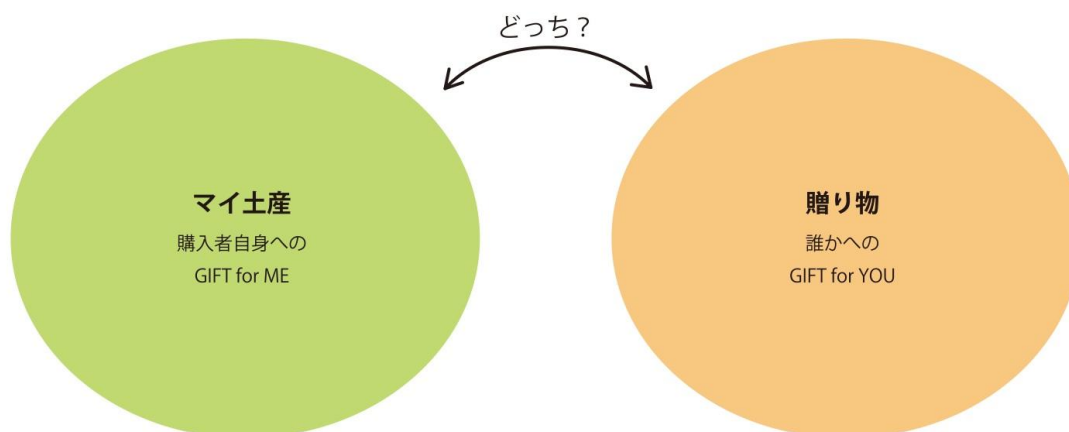
■「お土産～ギフト商品開発」の意味を再確認

1) 自身へのお土産 or 他者へのお土産、 2) 消えるお土産 or 残るお土産 など

安次富 お土産品は作りやすいからこそ、このプロジェクト ZAI では、新幹線開業前の高岡で「お土産」を再考したい。

観光客の質は変わりつつある。リピーターはお土産を買わない。これは観光客頼みの工芸産地では問題である。旅慣れた人はソフトに移行している。料理・酒・歌などの体験。観光地では、観光産業全体の収益の減少を修学旅行誘致で補おうとしている。しかし、中高生は工芸品を買わない。また、流行り廃りのあるお土産品のライフサイクルは短い。

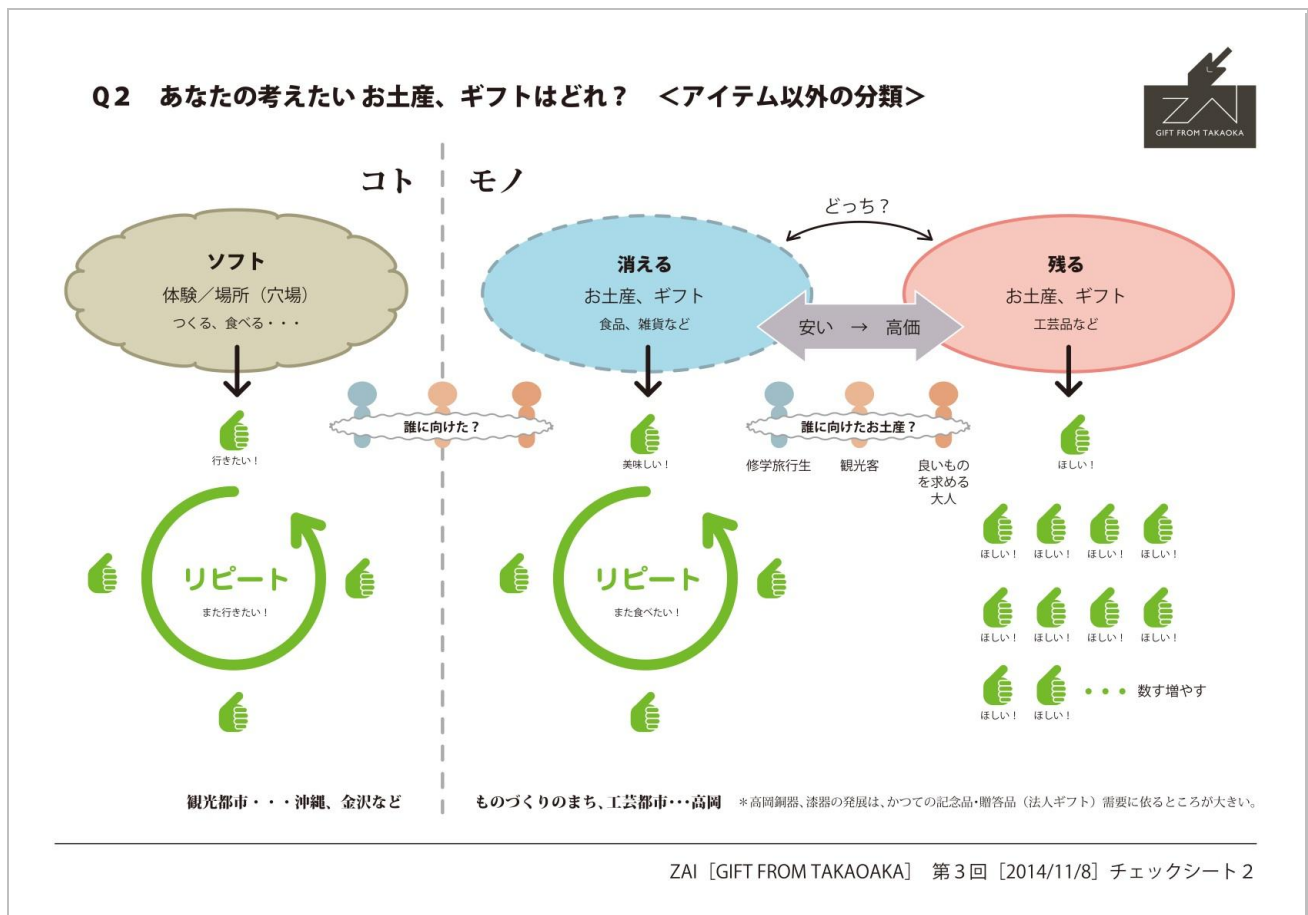
Q1 あなたの考えたいお土産、ギフトはどっち？ <アイテム以外の分類>



リピート観光客を呼ぶのは、スパなどのリゾート(ソフト)や、駅や空港には出店しない店の手作りバウムクーヘン、紅茶など。

高岡はこれからだが、先の先を見越しておく必要がある。観光地化の道をたどる必要はない。高岡は「観光地」を目指さない！経験(成功・失敗)を活かして高岡の未来を考えつつ進めましょう。

- まとめ**
- 「お土産」は、知らない土地(高岡)を紹介するアイテム、土地を代表するアイテム
 - 人を呼ぶお土産・・・知らない人に土地(高岡)を知ってもらい「行ってみたい」と思ってもらおう。
 - その土地(高岡)固有のストーリー≡土産話し付きなら、行ってみたいくなる。
 - マイ土産・・・場所の記憶(ソフト)→ ①自身が:持ち帰る → 普段使い／自分使い
 - 贈り土産・・・場所の記憶(ソフト)→ ②誰かに:あげる →(高岡に)行ってみたい!
 - 消えるお土産・・・消費されていく(良いモノなら拡散、継続していくが)
 - 残るお土産・・・本物志向、使い続ける
 - 観光地になる必要はない。本物志向の人を対象に。
 - 他との違い:(〇〇らしい、っぽい など)アイコン化されたもの以外の「高岡ならではの」価値とは？



参考 土産- Wikipedia

○土産(みやげ、どさん、とさん)は、

- ・知人や縁者に配る目的で旅行先などで買い求めるその土地に因む品物(進物)のこと。
- ・または知人や縁者の家宅など訪問先を訪問する際に感謝を込めて持参する進物のこと。
※後者の場合は手土産(てみやげ)という言い方もする。
- ・進物であることから丁寧語の接頭辞をつけ、御土産(おみやげ)と称するのが一般的。
※また知人や友人に渡すことを目的でのおみやげは日本人特有という説もある


○語源

- ・「土産」は元来、「どさん」または「とさん」と読む漢語で、「土地の産物(≒特産)」を意味する。※現代中国語でも同じ意味である。
- ・「みやげ」の語源は諸説あり、宮筥(みやげ・みやコナ)と呼ばれた神社などの配り物、「見上げる」の転、「土産物」の略、などと言われる。
- ・室町時代以降、「土産」を「みやげ」と熟字訓で読むようになった。ただし、「どさん(とさん)」と読んで使われることはある。




◎お土産、ギフト開発にあたって ~自分が買わないモノは人も買わない~



 お土産品開発で
気をつける事 <注意点! >

- ・つくりやすいお土産品
↓
- ・売れねば廃盤
~つくりすて~
↓
- ・ものづくりの質が低下
~安かろう悪かろう~
↓
- ・高岡の価値が低下

 人を呼ぶお土産
にするために<重要>

- 1 何をウリにするか?
・
・
・
- 2 他との違いは何か?
・
・
・